

# 『医学部・医学研究科ファクトブックⅡ』

## (沿革・構成編)

---

1. 沿革・設置目的	・・・ P 1	9. ミッション (教育研究上の目的、設置の趣旨目的)	・・・ P 5
2. 研究科長・学部長	・・・ P 3	10. ディプロマ・ポリシー	・・・ P 6
3. 副研究科長	・・・ P 3	11. アドミッション・ポリシー	・・・ P 7
4. 構成	・・・ P 4	12. カリキュラム・ポリシー	・・・ P 8
5. 取得可能な学位	・・・ P 5	13. 教育上の取組	・・・ P 8
6. 専任教員数	・・・ P 5	14. 学生に関すること	・・・ P 9
7. 予算規模	・・・ P 5	15. 就職	・・・ P 9
8. 校地・校舎等の状況	・・・ P 5	16. 教育研究上の活動状況等	・・・ P 9

# 1. 沿革・設置目的

- ◆明治 2 (1869) 年                    神戸病院開院
  
- ◆明治 9 (1876) 年                    神戸病院附属医学所設置
  
- ◆明治 15 (1882) 年                  兵庫県立神戸医学校に改名
  
- ◆明治 21 (1888) 年                  兵庫県立神戸医学校廃止
  
- ◆昭和 19 (1944) 年                  兵庫県立医学専門学校設置

## 《設置目的》

大東亜戦争完遂の途上、厚生施設の完備は現下の極めて急務する所にして就中医師の養成は急務中の急務する所なり。政府に於いても之等医療機関の拡充と医師養成に鋭意努力を注ぎ、官立医学専門学校設置を企図せられつつあるとき、大東亜共栄圏の開門たる神戸市に医科大学を設置し、時局下医療機関の拡充を計るには、極めて喫緊なる国家の要務なり。

〔平成 6 (1994) 年「神戸大学医学部 50 年史」より〕

- ◆昭和 27 (1952) 年                  新制大学「兵庫県立神戸医科大学」設置
  
- 昭和 26 (1951) 年 10 月 10 日
  
- 兵庫県より新制大学設置認可申請書を文部大臣に提出
  
- 昭和 27 (1952) 年 2 月 20 日
  
- 新制大学設置認可
  
- 昭和 27 (1952) 年 4 月 1 日
  
- 新制大学「兵庫県立神戸医科大学」設置

## 《設置目的》

大学の名称について、兵庫という名前を神戸に変更する理由について書類は残されていない。当時の多くの教官、学生達は神戸の方がより国際的に開かれたイメージがあるという意味で名称の変更を望んでいたようである。

〔平成 6 (1994) 年「神戸大学医学部 50 年史」より〕

- ◆昭和 33 (1958) 年                  神戸医科大学大学院医学研究科の設置（文部大臣認可）

## 《設置目的》

本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究しその深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とし、専門分野に関する高度の研究指導者並びに技術者を養成することを使命とする。

◆昭和 39 (1964) 年

神戸医科大学の国立移管により、神戸大学医学部の発足

《設置目的》

使命は、県唯一の医育機関として、教育、研究、医療の中心であり、県民各位の保健福祉の向上に寄与し、その附託に応えること。

[平成 6 (1994) 年「神戸大学医学部 50 年史」より]

◆昭和 42 (1967) 年

神戸医科大学大学院の国立移管により神戸大学大学院医学研究科の成立

《設置目的》

国立大学設置法の一部改正（昭和 39 (1964) 年 3 月法律第 9 号）により、神戸大学に医学部が設置されたことに伴い、神戸医科大学を国に移管することとなった。昭和 42 (1967) 年に神戸医科大学の神戸大学への移管は完了し、昭和 42 (1967) 年 11 月 17 日、国立移管記念式典が挙行され、その記念式典で遠藤中節学長は以下のように述べている。

「本学は誇り高き伝統に支えられて、医育機関としての使命達成に努力を積み重ねてまいりましたが、その間安んじて大学の運営に従うことが出来、とりわけ、昭和 38 (1963) 年国立移管のことが決するや巨額の資金を投じて施設の整備を実施せられ、国立医育機関としての内容を整えていただきましたことは、本学教職員のひとしく感銘深いところであります。（中略）明治 2 (1869) 年 4 月開設以来、県政 100 年の歩みの中に消長して参りました附属病院の今日の姿を顧みますとき、今日ここに多年の懸念が実を結んで、神戸大学医学部及び同附属病院となり、国の運営に委ねられることになって、多少郷愁のようなものがなきにしもあらずとはいえ同じ地にあつて教育、研究、医療の中心であり、大学としての使命にはいささかの変わりもなく、更に一層医学の研鑽を重ねて県民各位の保健福祉の向上に寄与し、その附託に応える存念であります（以下略）」

◆平成 6 (1994) 年

医学部保健学科の設置

◆平成 11 (1999) 年

大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称

◆平成 13 (2001) 年

大学院医学系研究科生理学専攻等 5 専攻を医科学専攻に改組  
医学部医学科 35 講座を廃止し 4 大科目とする（大講座制）

《設置目的》

旧来の縦割り学問体系を基盤とした大学院の教育研究組織を換骨奪胎し、新しい学問体系に即した一大専攻「医科学専攻」のもとに再編成し、教育研究の中心を学部から大学院に移すことで弾力的な学部・大学院一貫教育を目指す。

[神戸大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程設置計画書より]

◆平成 14 (2002) 年

大学院医学系研究科バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）設置

《設置目的》

他学部出身者に対して、バイオメディカルサイエンスを体系的かつ集中的に教育する修士課程を設置することにより、博士課程進学後の教育研究が円滑になり、より高度の研究者・教育者の養成が可能になるとともに、時代の要請に応じた高度専門職業人の養成が可能となること。

〔神戸大学大学院医学系研究科バイオメディカルサイエンス専攻修士課程設置計画書より〕

◆平成 16 (2004) 年

国立大学法人神戸大学発足

附属医学研究国際交流センターを附属医学医療国際交流センターに改組

◆平成 20 (2008) 年

大学院医学系研究科を改組し、大学院医学研究科に改称

大学院保健学研究科の設置

◆平成 21 (2009) 年

附属医学医療国際交流センターを附属感染症センターに改組

**2. 研究科長・学部長** (H28. 1. 1 現在)

◆片岡 徹 (専門：分子生物学)

任期：1 期目 (H25. 5. 16 ~ H28. 3. 31)



**3. 副研究科長** (H28. 1. 1 現在)

◆的崎 尚 (専門：シグナル統合学)

任期：1 期目 (H25. 5. 16 ~ H28. 3. 31)

◆飯島 一誠 (専門：小児科学)

任期：1 期目 (H25. 5. 16 ~ H28. 3. 31)

◆南 康博 (専門：細胞生理学)

任期：1 期目 (H25. 5. 16 ~ H28. 3. 31)

## 4. 構成 (H27.5.1 現在)

### ◆医学部

学科名	入学定員	備考
医学科	112	
合計	112	(内地域枠10、研究医枠2)

### ◆医学研究科

専攻名	入学定員		備考
	(M)	(D)	
医科学専攻		78	
バイオメディカルサイ エンス専攻	25		
合計	25	78	

### ◆部局内センター

#### ○ 附属動物実験施設

昭和 48 (1973) 年 4 月 1 日設置

- ・目的：科学的かつ動物福祉に配慮した動物実験を実施するため、整備された環境の下、実験動物を集中管理するとともに、実験動物及び動物実験に関する医学教育・研究を実施する。
- ・業務：①大学院医学研究科・医学部で実施される動物を用いた医学研究のサポート。  
②動物実験が適正に実施されるための教育および情報提供。  
③附属動物実験施設独自の研究活動。

#### ○ 附属医学研究国際交流センター

昭和 54 (1979) 年 4 月 1 日設置

#### ○ 附属医学医療国際交流センター (附属医学研究国際交流センターを改組)

平成 16 (2004) 年 4 月 1 日設置

#### ○ 附属感染症センター (附属医学医療国際交流センターを改組)

平成 21 (2009) 年 4 月 1 日設置

- ・目的：アジア諸国を中心に、感染症を始めとして地球規模の医学的課題に対応する国際共同研究  
・教育活動を実施する。
- ・業務：①感染症教育研究拠点の形成。  
②若手教育研究者の人材養成。  
③感染症対策に不可欠な活動の実施。  
④安全・安心の確保という社会のニーズに応える。

## 5. 取得可能な学位

### ◆医学部医学科

学士（医学）

### ◆医学研究科

修士課程：修士（バイオメディカルサイエンス）

博士課程：博士（医学）

## 6. 専任教員数

(H27.5.1) 現在

→医学部・医学研究科ファクトブックⅢ(データ・資料編)のとおり

## 7. 予算規模

平成 26 年度

運営費交付金等 1,879 百万円

外部資金 3,383 百万円

総計 5,262 百万円

※1 各部局における予算執行額を予算規模としている（ただし、設備整備費補助金・施設整備費補助金及び目的積立金は除く）。

※2 百万円未満を四捨五入して計上。

## 8. 校地・校舎等の状況

(H27.5.1) 現在

### ◆建物の延べ床面積

150,781 m<sup>2</sup>

### ◆教室等

・講義室 5室、 演習室 17室、 実験実習室 3室

情報処理学習施設 2室（補助職員 1人）、語学学習施設 0室（補助職員 0人）

### ◆専任教員研究室

200 室

## 9. ミッション（教育研究上の目的、設置の趣旨目的）

### ◆医学部医学科

広い知識を授けるとともに、医学・生命科学分野の教育研究を行い、高度な専門的知識・技術を身に付け、高い倫理観並びに旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持つ医師及び医学・生命科学における先端的・学際的研究を推進する研究者を養成することを目的としています。

#### ◆医学研究科

##### ○修士課程（バイオメディカルサイエンス専攻）

バイオメディカルサイエンス及び医学の先端的・学際的研究を推進するとともに、同分野における優れた研究者、教育者及び関連する産業分野において高度の専門的な学識をもって活躍できる人材の養成を目的としています。

##### ○博士課程（医科学専攻）

医学・生命科学領域における高度で先端的・学際的研究を推進するとともに、将来、医学・生命科学を担う優れた医学研究者並びにリサーチマインド及び高度な臨床技能を兼ね備えた臨床医（高度職業人）の養成を目的としています。

## 10. ディプロマ・ポリシー

#### ◆医学部医学科

神戸大学医学部医学科は、高い倫理観を有し高度な専門的知識・技能を身につけた医師（医療人）の養成を目的とするとともに、旺盛な探求心と創造性を有する「科学者」としての視点を持った医師及び医学・生命科学研究者を育成することを目指している。

また、広い視野を有し、それぞれの領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としている。

この基本目標から、以下に示した方針に従い学位を授与する。

- ・本医学科に所定の期間在学し、卒業に必要な単位を修得し、かつ卒業試験に合格する。
- ・卒業までに、本学科学学生が課程を通じて達成を目指す学習目標は次のとおりとする。
  - 幅広く高度な知識を有し、高い倫理観を有する。
  - 旺盛な探究心と創造力に加えて、課題を設定し解決できる能力を有する。
  - 多様な価値観を尊重し、国際的に活躍できる能力を有する。
  - 医学・生命科学に関する幅広い技術を身につけ、適切に発揮できる。

#### ◆医学研究科

神戸大学大学院医学研究科は、人間性豊かで高い倫理観並びに探求心と創造性を有する科学者としての視点を持つ医師・医学研究者を育成するために国際的に卓越した教育を提供することを基本理念としている。

この基本理念のもと、以下に示した方針に従い学位を授与する。

##### ○修士課程（バイオメディカルサイエンス専攻）

- ・本専攻に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格する。
- ・修了までに、本専攻学生が課程を通じて達成を目指す学習目標は次のとおりとする。
  - 豊かな教養と**生命倫理観**を身につける。
  - 旺盛なる探求心と創造性を有する科学者の視点をもって新しい課題に取り組むことができる。

- 研究により自ら見出した新しい知見を、論理的かつ明瞭な言葉により表現し、必要に応じて国際的に発信できる。
- 生命医科学における深い学識と高度な専門的能力を備える。

### ○博士課程（医科学専攻）

- ・本専攻に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格する。
- ・修了までに、本専攻学生が課程を通じて達成を目指す学習目標は次のとおりとする。
  - 豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、知性、理性及び感性が調和した医師・医学研究者として行動できる。
  - 旺盛なる探求心と創造性を有する科学者としての視点を持って新しい課題に取り組むことができる。
  - 多様な価値観を尊重し、異文化への理解と優れたコミュニケーション能力を兼ね備えた医師・医学研究者として国際的に活躍できる。
  - 医師・医学研究者として高度な専門知識・技術を身につける。

## 11. アドミッション・ポリシー

### ◆医学部医学科

医学部医学科における教育は、高い倫理観を有し高度な専門知識・技能を身につけた医師を養成することを目的としているが、それにとどまらず、旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持った医師及び生命科学・医学研究者を育成することを目指している。また広い視野を有し、それぞれの領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としている。これらのことを受け止めることのできる能力や知識を持った次のような学生を求めている。

### ○医学部医学科の求める学生像

1. 生命科学・医学に強い興味を持ち、探究心と学習意欲が旺盛な学生
2. しっかりとした基礎学力を身につけている学生
3. 協調性があり、問題解決においては独創性と指導力を発揮できる学生
4. 国際的に活躍する意欲を持った学生

以上のような学生を選抜するために、医学部医学科では、大学入試センター試験により総合的な基礎学力を測り、個別学力検査では「数学」「理科」「外国語」「面接」を課すことにより、自然科学分野における幅広い教養と深い知識とともに、理解力、読解力、語学力、意欲、協調性、倫理観等を測ります。

### ◆医学研究科

### ○修士課程（バイオメディカルサイエンス専攻）

バイオメディカルサイエンス専攻は、国際的医療産業都市を志向する神戸に立地する大学院修士課程として、生命科学と医学の国際的・先端的な研究・教育の拠点となる事を目指しています。そのために、意欲と協調性を有する次のような学生を求めています。

1. 国際的に活躍する生命科学・医学研究者を目指す学生
2. 他分野の専門知識を生命科学・医学領域に応用・発展させたい学生
3. 先端的な生命科学・医学的知識及び技術を学びたい学生
4. バイオ・医学・医療等の関連産業において活躍したい学生

### ○博士課程 (医科学専攻)

医科学専攻は、国際的医療産業都市を志向する神戸に立地する大学院博士課程として、生命科学と医学の国際的・先端的な研究・教育の拠点となる事を目指しています。そのために意欲と協調性を有する次のような学生を求めています。

1. 生命科学・医学研究者として国際的に活躍したい学生
2. 高度な専門知識と技能を持った臨床医を目指す学生
3. バイオ・医学・医療等の関連産業において活躍したい学生
4. 先端的な生命科学・医学的知識及び技術を学びたい学生
5. 企業・病院・公的機関等に在籍しながら研究を行い、博士号取得を目指す学生\*

(\*社会人入学制度を利用する事が必要)

## 1 2. カリキュラム・ポリシー

→医学部・医学研究科ファクトブックⅢ(データ・資料編)のとおり

## 1 3. 教育上の取組

◆多様な学習の機会 (英語授業, ボランティア活動, 海外留学等)

◆ボランティア活動, 海外留学の教育的効果を高めるための単位認定以外の特別な取組 (例えば TOEIC 受験など)

◆ダブルディグリープログラム受入れ・派遣学生数

◆協定に基づく海外留学者数

◆4月以外の入学者状況

◆ナンバリング導入状況

→医学部・医学研究科ファクトブックⅢ(データ・資料編)のとおり

## 14. 学生に関すること

◆入学者数等 (H26.5.1 現在) (入学状況等調査のデータを引用)

◆留学生の出身地域内訳

◆日本人学生の海外派遣人数内訳

→医学部・医学研究科ファクトブックⅢ(データ・資料編)のとおり

## 15. 就職

◆就職率 (各年5月1日現在、5年分、就職率=就職者/就職希望者)

	平成 22 (2010) 年度	平成 23 (2011) 年度	平成 24 (2012) 年度	平成 25 (2013) 年度	平成 26 (2014) 年度
学部	-	-	-	-	-
博士前期課程	76.5%	93.3%	90.0%	91.0%	91.7%
博士後期課程	-	78.0%	94.0%	93.0%	90.0%

◆就職先

◆博士課程後期課程の就職先 (H26.5.1 現在)

◆日本国内における外国人留学生の就職先

→医学部・医学研究科ファクトブックⅢ(データ・資料編)のとおり

## 16. 教育研究上の活動状況等

16-1 科研費等

◆科学研究費補助金 (補助金分・基金分)

◆共同研究, 受託研究, その他外部資金

16-2 研究業績の状況

◆主な業績数

→医学部・医学研究科ファクトブックⅢ(データ・資料編)のとおり

◆海外において通算して1年以上教育研究に従事した日本人教員の在籍状況

121人

◆国外で学位を取得した日本人教員の在籍状況

Master/修士 0人

PhD./博士 1人

◆ベンチャーの実績

2010年

CO2BE Medical Engineering (株) (神戸メディカルエンジニアリング)

医学研究科 黒坂 教授

世界初である「高濃度炭酸ガス療法」の早期事業化を目的とする。炭酸ガス経皮吸収による人工ボア効果発生装置を、医療機器として開発するだけでなく、美容機器、健康機器としても製品化することにより、大学の研究成果を広く社会還元する。

2006年

(株) マスターオブサイエンス

医学研究科 清野 教授

糖尿病と肥満を中心とした生活習慣病に関する創薬など先端科学技術シーズのバリューアップと成果の実用化の支援などが事業ターゲット

2002年

(株) GMJ

医学部附属医学研究国際交流センター 後藤 助教授 / 医学研究科 白川 准教授

遺伝子治療及び細胞治療の臨床応用に必要な製品の開発・販売及びコンサルティング

(有) アルゴス

医学系研究科 正井 助教授

医用画像処理及びバイオインフォマティクス関連ソフトの開発及び販売

2001年

ネオケミア (株)

医学部 奥村 教授ら

化学をベースに生体機能を最大限に引き出すテクノロジーで豊かな生活をサポートする創薬研究企業。

2000年

(有) パソテック

医学部附属医学研究国際交流センター 後藤 助教授ら

病理標本並びに研究用組織標本・試料の作製と解析・診断

1998年

(株) バイオリサーチ

医学部 三島 教授

癌治療法、同新薬、再生医療、化粧品などに関する研究開発、並びに販売